

No. 2 発達段階と情報メディア

1. 情報リテラシー教育を担うのは学校図書館

デジタル情報や ICT 機器が急速に普及しているが、ICT 機器を使うことが目的ではなく、ICT 機器をどのように使うかという指導方法が重要である。

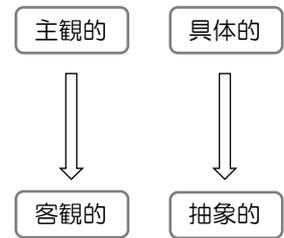
2. 成長に合わせた活用を

例えば、小学校で昆虫を調べるときは、印刷体の図鑑を使う。またオンラインの百科事典や図鑑を使えば昆虫の飛ぶ姿の映像を見たり、鳴き声などの音声を聞いたりできる。

けれども、小学校の低学年にはもっと必要なことがある。実際に触ってみる、ガサゴソ動く感触を知る、飼育してみても餌の食べ方を見るなど、まず具体的な体験が必要である。図鑑やデジタル情報で得る情報と具体的な体験があいまって真の理解に進むのではないだろうか。

小学校低学年から、高学年、中学校へと年齢が進むにつれ、思考が深まっていく。

- 【例:地図】小学校低学年…実際に町を歩いて見つけたものを、学校に帰って大きな地図の上に書いていく。(具体を抽象に置き換える)
- 小学校高学年…地図を見て町を想像する。地図を見ながら町を歩く。(抽象から具体を想像する)
- 中学校 …デジタル情報で古地図を見て現在の町と比較する。(存在しないものも想像する)



3. 発達段階に応じて順に指導を(まず印刷体から始めよう)

- 事典(印刷体)を使えないと事典データベース(オンラインあるいはDVDなど)は使えない。
- ・オンライン百科事典は、印刷体の百科事典と作りが同じなので、事典と同様に項目見出しは五十音順で出てくる(例1)。インターネット検索では関連するものが表示される(例2)。
- ・オンライン百科事典で検索するとき、インターネットのように間にスペースを入れて「&検索」で絞り込もうとしてもできない。
「**市の鳥」を調べるとき、印刷体の百科事典を使い慣れていれば「**市」を引いてその中で「..の鳥」を探すが、事典の作りを知らないと調べられないことになる。
このように、子どもは印刷体に慣れていないと、検索方法や表示内容をうまく使いこなせないのである。
- つまり、情報メディアの活用は、小学校からの積み重ねの上でできることである。

(例1) 小金井市をオンライン事典で調べると…

前後の項目
小型家電リサイクル法
小刀
古楽器
五月人形
と、印刷体と同じく五十音順に出てくる。

(例2) 小金井市を Google で調べると…

小金井市の公式サイト
小金井市 Wikipedia
東京都小金井市の地図
小金井市商工会
と、キーワードに関連するものが出てくる

段階を経た指導によって、情報メディアの特質を知り、使い分けられるようになっていく。

具体的なもの → 印刷体 → 子ども向け事典データベース → Web サイト一般

上記のような順で、成長に合わせて経験させていくとよい。

○情報センターとしての役割

著作権や信頼できる Web サイトを選ぶ姿勢の指導も重要である。情報教育を小学校から順に指導していくことで、情報に振り回されない社会人に育っていく。